

Rich Dad

Robert Kiyosaki

Poor Dad Letter



RICH DAD POOR DAD LETTER によろこそ!

第1号をお届けします。エディターのロバート・キヨサキからの情報を、じっくりお読みください。

私には2人の父がいた。金持ちの父と、貧乏な父だ。1人はしっかりした教育を受け、とても知的な人だった。4年制の大学をわずか2年以下で卒業し、博士号を取得したかと思えば、その後もさらなる教育を受けるために、スタンフォード大学、シカゴ大学、ノースウェスタン大学...と3つの大学にすべて奨学金で通ったほどだ。もう1人の父は、中学すら卒業していない。

2人の父とも、生涯を通して一生懸命働き、キャリアも成功の道を歩んだし、2人ともかなりの収入があった。なのに、片方の父はいつもお金に困っていた。もう片方の父は、ハワイでも有数の大富豪になった。片方の父は亡くなった際、家族・慈善事業・教会に多額の遺産を残したが、もう1人の父が残したのは、未払いの請求書の束だった。

2人の父とも、カリスマ性に富んだ影響力のある人だった。2人とも私にアドバイスをくれたが、その内容は同じではなかった。2人とも教育の大切さを強く信じていたが、勉強の仕方についてのアドバイスは異なるものだった。

もし私に父が1人しかいなければ、その1人の父のアドバイスを受け入れるか、拒絶するかのどちらかだっただろう。

しかし2人の父がいたことで、「金持ちの視点」と「貧乏人の視点」という、相対する視点を比べる選択肢を与えてもらった気がする。

単にどちらかだけを鵜呑みにするか拒絶するのではなく、私は自分の頭でよく考え、よく比較することで、自分で選択するようになっていった。

問題は、当時、金持ちの父はまだ金持ちではなかったし、貧乏な父もまだ貧乏ではなかったことだ。2人ともちょうどキャリアを進み始めたくらいの時期で、同様にお金や家族の問題で苦しんでいた。

ただ、お金に関して、2人はまったく異なる視点を持っていた。

たとえば、片方の父は「金を愛することは、諸悪の根源だ」と言った。

もう1人の父は「お金が足りないことが、諸悪の根源だ」と言った。

自分で考える必要がある

まだ小さかった私にとって、影響力のある父が2人いることは大変だった。

親の言うことを聞く良い子でいたかったが、2人とも言うことが違うのだ。特にお金に対する視点が正反対だったことに、私は興味をひかれた。私は、それぞれの父が言っていることについて、長い時間考えを巡らすようになった。

1人でいる時間のほとんどは、こう自問していたように思う。「なぜ父は、こう言うんだろう？」

単に「そりゃあ親父の言うことは正しいに決まってるよ。僕もそう思う」とか、逆に一方の視点を「親父は、何もわかっちゃいないんだ」と言って拒絶していれば、そこで話は終わっていたように思う。

だが2人の父のことを愛していたからこそ、考える必要に迫られ、最終的には考え方を自分で選ぶようになった。その過程...つまり、自分自身で選ぶ能力を育んだことこそが、1つの視点を鵜呑みにしたり、拒絶するよりも、長期的な価値につながったと思う。

金持ちがますます金持ちになり、貧乏人がますます貧乏になり、中間層が借金で苦しむ理由の1つに、お金というテーマが学校ではなく、家庭で教えられていることにある。ほとんどの人が、お金については親から学んだはずだ。

貧乏な親は、子供にお金のことをどのように伝えるだろうか？ただ「学校にだって勉強しなさい」とだけ言うだろう。そんな子供は成績優秀で卒業したとしても、お金に関しては貧乏な親からプログラミングされてしまっている。

悲しいかな、学校はお金について教えてくれない。

学校は学力や専門知識には熱心だが、お金に対するスキルを養ってはくれない。そのせいで、学校では頭脳明晰で成績も良かったはずの子どもたちが、銀行員や医者、会計士になってもお金の問題で生涯苦勞する。アメリカが膨大な借金を抱えているのだから、学歴の高い政治家や政府関係者が、お金に関する訓練をほとんど、もしくはまったく受けぬまま財政面の決定をしていることに、大きな原因がある。

最近私は、「金銭面や医療面での援助が必要な大勢の人達は、近い将来、どうになってしまうのだろう」と考えることが多い。おそらく彼らは、永久に家族や政府からの金銭援助に依存するのだろう。でも、医療保険制度や社会保障制度が崩壊してしまったら？国はどうになってしまうのだろう？

影響力の大きな2人の父がいた私は、2人から学ぶことができた。

それぞれの父からのアドバイスについて考えるうちに、自らの思考が自らの人生に及ぼしうる効果について、価値ある気づきを得るようになった。

たとえば、片方の父の口癖は「そんなもの、買うお金はない。」

一方、もう1人の父は、私に「どうすれば買えるだろうか？」と考えるように、強く教えてくれた。

前者は宣言だが、後者は質問だ。

前者は「じゃあ仕方ないね」で終わってしまうが、後者を問えば、考えざるをえなくなる。

後に金持ちになる父は、「何も考えずに『そんなもの、買うお金はない』と言った瞬間、脳はフリーズしてしまうんだ」と説明してくれた。代わりに「どうすれば買えるだろうか？」と問えば、脳が動き出す。もちろん、ほしいものは何でも買え、という意味ではないが。

その父は、脳という世界最強力なコンピューターを働かせることについて、非常に熱心だった。父はよくこう言っていたものだ。「私の脳は、日に日に強くなっていく。毎日働かせているからね。強くなればなるほど、お金を稼げるようになるんだ。」父は、「そんなもの、買うお金はない」と反射的に言うのは、脳が怠けている証拠だ、と考えた。

2人の父とも一生懸命働いていたが、片方の父は、お金のこととなると脳が睡眠状態になってしまう癖がついていた。一方、もう1人の父は脳を働かせる習慣がついていた。その長期的な結果として、1人はお金に対して力を持つようになっていったが、もう1人はどんどん弱体化していった。

定期的にジムに通って運動している人と、ただソファに寝そべってテレビを見ているだけの人を比べると同じ話だ。正しい運動をしていれば、健康でいられる確率が高まるのと同様、正しく脳を働かせていれば、富を築ける確率も高まる。

お金のために働くべきではない

2人の父の正反対の姿勢は、彼らの考え方にも影響を及ぼしていた。2人とも、学問や学びに対しては大きな重要性を感じていたが、「何を学ぶのが重要か」という点に関しては、異なる意見を持って

いた。

片方の父が私に望んでいたのは、とにかく頑張って勉強し、学位を取得し、良い仕事につき、給料をもらうこと。弁護士や会計士などの専門職につき、MBA 取得のためにビジネススクールに通ってほしかったようだ。

もう片方の父は、金持ちになるための勉強をするようにアドバイスをくれた。「本当の意味でのお金の勉強をしろ」「お金の働き方を理解しろ」「お金の働いてもらえ」と教えてくれた。

金持ちの父の口癖は、「私がお金のために働くんじゃない！お金が私のために働くんだ！」

とはいえ、本当の意味でのお金の勉強をするためには、少しばかり金融の歴史をおさらいする必要がある。というのも ...

いま、アメリカは恐ろしい金融危機に直面しているからだ

高齢化が進むベビーブーマー世代は、自分達の年金が消滅し、リタイアの夢が消え去っていくのを目の当たりにしている。しかし、この危機はどこからともなく現れたわけではない。この金融危機は、連邦準備制度および米国の税金制度が始まった 1913 年以来、100 年以上にわたって醸成されてきたものである。

それ以来、金融界・政治界・学問界のエリートたちは、アメリカの死にゆく部分には目を向けずに良い暮らしをしてきた。工場が海外に移転しても、ずっと誰も気に留めずにきた。かつては給料の高かった職種が海外に流出しても、ずっと誰も気に留めずにきた。アメリカのあちこちの町が廃れていっても、ずっと誰も気に留めずにきた。

バーニー・サンダース上院議員は理解していたからこそ、彼は民主党予備選でヒラリー・クリントンをあともう少しで負かすところだった。そして、ドナルド・トランプも理解していたからこそ、彼は今、アメリカ合衆国大統領なのだ。

しかし、私の懸念は、トランプ大統領に救ってもらおうと依存している人が多すぎることだ。トランプは優秀な男だが、スーパーマンではない。まずは自ら立ち上がって何とかしようとしないう限り、トランプだって全ての人を救うことはできないだろう。

トランプと私は、「あなたに金持ちになってほしい」と「黄金を生み出すミダスタッチ — 成功する起業家になるための 5 つの教え」という 2 冊の本を共著した。私達の信念は、バーニー・サンダースや他の人々のように、人に魚を与えることではない。

共和党派でも民主党派でもない私の金融教育には、政治色はない。あえて言うなら、私は「独立派」。自ら考える人間だ。

私がトランプとタッグを組んだ唯一の理由は、私達は「人に魚の釣り方を教える」という同じ信念を持っていたから。

だからこそ、私は人に釣り方を教えるために、1997年...20年以上も前に、1冊目の本「金持ち父さん、貧乏父さん」を書いたのだ。

それから20年以上たった今、あなたにまったく新しい方法で魚を釣る方法教えるべく、今回の新しいプロジェクトに乗り出すことにした...

コインの別の面を見るべき時が来た

お金は天下のまわりもの... というが、あなたもお金の働き方についての教育を受ければ、現在の年齢に関係なく、お金に対して力を持ち、富を築きはじめることができる。

さて、その教育は、私が「コインの側面に立つ」と呼んでいることから始まる。

コインには「表」と「裏」という、2つの面があることは、ほとんどの人が知っている。同様に、議論などにおいても2つの側面がある。

ある賢い人が「金価格は値上がりする」と言えば、別の賢い人が「金価格は暴落する」と言うし、ある賢い人が「いまこの銘柄は買いだ」と言えば、別の賢い人が「この銘柄はゴミ以下だ」と言う。

ここでほとんどの人が理解していないのは、「どちらが正しいかは関係ない」という点だ。

なぜなら、コインには、実は3つの面（表、裏、側面）があることを知っている人は、ほとんどいないからだ。

コインの側面に立ち、相対する視点を理解し、それぞれの面における価値ある情報を見極め収集する能力こそが、あなたにとって必須のスキルとなる。

それができれば、お金を稼ぐ方法は常に見つけられるはずだ。

だからこそ私は、今回の新しいプロジェクト「The Rich Dad Poor Dad Letter」に乗り出すことにしたのだ。

これは、あなたがこれまで読んできた、 どんなニュースレターとも異なる

このニュースレターの企画段階で、私は「銘柄選定はしない」とハッキリ伝えた。

私は「OK 捕虜収容所」のシュルツ軍曹と同じで、何も知らないのだ。

私にあるのは、人生から得た教訓と、私を助けてくれる専門家チーム、そして教えることへの情熱だけ。

私はただ、チームと一緒に、金融に対する知性を高めながら応用し、知識を他の人達に伝えていきたいのだ。

私たちは、私の経験やストーリーを使いながら学びを強化させると同時に、あなた自身も富を構築していくためのチャンスを示していくことを目指している。

金持ちの父が私に教えてくれたように、私から伝えることはすべて、できるだけシンプルにするように心がけている。また、画像や手書きのメモも随所に入れてこうと思っている。

お金の勉強をしたからといって、それがファイナルアンサーになるわけではない。しかし、変化が加速しているこの不確実な世界において何が起ころうとも、あなたやあなたの子どもたちを導いてくれる指標となるだろう。

あなたに富を増やしてもらいたい。リスク・マネジメントをしながら、リスクをとってもらいたい。何より、私はあなたに成功してもらいたい。

しかし、あなたがしなければいけないことも、2つある。

1. 自分自身に対して責任を持つ。

このニュースレターでは株式や配当、オプション、その他の戦略を扱っていく。先に金融の知識をつけることなく、そういった証券に投資したりトレードするべきではない。

2. 行動する。

勉強するのは第一歩だ。しかし、行動をとらなれない勉強は、単なる頭の体操にすぎない。失敗するリスクをとれないのであれば、決して成功もできない。

もし、誰かが（私が）あなたのために面倒なことをすべてやってくれるだろう ... という近道を求めてこのニュースレターを購読したなら、今すぐ解約したほうがいい。

それは、怠け者のすることだから。

私が怠け者の投資家のことを何と呼んでいるか、知っているかな？

「貧乏人」

... もしもーし？まだいるかな？

お金の知識をつける準備はできているだろうか？

よし。では、今月の最初のレッスンからはじめていこう ...

より素晴らしい人生のために。



ロバート・キヨサキ

エディター：The Rich Dad Poor Dad Letter

< 免責事項 >

- ・ 当社の商品、およびコンテンツは、お客様の投資判断や運用戦略のご検討にあたり参考となる情報の提供を目的として作成されたものであり、実際の投資等に関する最終的なご決定はお客様ご自身のご判断で行って頂きますようお願い致します。
- ・ 当社の商品、およびコンテンツは、お客様の投資におけるいかなる利益も保証するものではなく、また、投資の結果によってお客様が思わぬ損害を被る可能性もあるため、投資を行われる際にはお客様ご自身で投資のリスクを慎重に検討されますよう併せてお願い致します。
- ・ 当社の商品、およびコンテンツに掲載されている情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手した情報等によっておりますが、当社がこれらの情報の正確性等について、全て、独自に検証しているわけではありません。当社はこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何らの表明又は保証をするものではありません。当社は、当社の商品、およびコンテンツの内容及び提供、並びにお客様による第三者への開示等について、お客様その他当社の商品、およびコンテンツの閲覧者に生じた一切の損害、損失又は費用について、損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害結果損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含め、これらについて債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何を問わず、何ら責任あるいは義務を負わないものとします。
- ・ 当社の商品、およびコンテンツ中における、シミュレーションやバックテストについては参考データ等のご提供を目的として作成したものであり、将来の利回りを保証するものではありません。

Rich Dad Poor Dad Letter 創刊号

発行日 2020年1月

著者 ロバート・キヨサキ

発行者 寺本 隆裕

発行所 APJ Media 合同会社

大阪府大阪市中央区南船場2丁目5番12号

クリスタファイブ 10F

©2019 APJ Media, LLC All rights reserved.

※この電子書籍の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。